

部会報告

初期診断部会

①設計料について、依頼主より頂けるかどうかはなし、一度工事費に對してどの程度の比率の費用が適正かを検討し、提案する。
 ②今のふくてつづくの縦割り体制を見直し、他の部会からも初期診断に参加して頂けるようにすればどうか。
 ③ふくてつづくとしての独自性・コーディネート機能をもっと充実させるべきか。(NPO法人を取得すべきか。)

以上については初期診断部会だけで結論を出せる問題ではなく、今後の例会等において、皆さんと共に協議していきたくと考えております。(記 畑 俊治)

事後検証部会

事後検証部会は、創設以来ほとんど活動なく推移してしまいました。部会リーダーとして甚だ残念です。設立の趣旨は、1つにその名のり事後検証であり、2つ目は事例の中から貴重な資料を抽出する事でありました。
 昨秋以来、部会の統廃合

について賛否両論をお寄せいただきましたが、前述の趣旨の1番目については、あくまでも事後検証部会の独立性が保持されないと、その意味がありません。診断や製作を担当した本人が事後検証をしては事後検証になるはずがないからです。しかし2番目の趣旨は、関係した会員との密接な連携と共同作業が不可欠となります。

右記2つの課題に取り組みむには、現下のマンパワーではあきらかに力不足は目に見えています。会員総数に對して、あまりにも多くの部会を独立させるより、より緩やかなグループを形成して活動する方がより大きな期待できるのではないかと。また新規参加メンバーにも全体像が把握でき、それなりに活動機会に恵まれるのではないかと。そのように感じています。(記 中北 清)

福祉施設・制度研究部会

平成二年度は「今林の里建設支援部会」として、参加会員のご協力を得て多くの成を残す事ができました。
 平成三年度から、新たに表記の新年会を旗揚げした

これは、現実の業務をグループで推進する中で、ふくてつづくが社会に発言する機会を創出し、私たち自身の研鑽と資質向上を實現しようとするものです。実際に、実務としていくつものプロジェクトに取り組みべく、着々と布石を打ちつつあります。

従つてボランティア活動というよりは、むしろ専門集団による共同業務遂行というスタイルになります。が、常の業務とはひと味もふた味も様相を変えていく事で、ふくてつづくの部会活動としての特色を打ち出したいという物です。
 すなわち、まず一定の経済活動のなかで、可能な限りデイスカッションと試行錯誤を重ねる事で時代を先取りした発想を発信する事、特に既成概念や制度の矛盾には躊躇なく警鐘を鳴らす事を旨とします。

次に、旧泰然たる設計・施工の慣行、とりわけネコンと下請けの関係などにも思い切ったメスを入れ、我々が中心となってプロジェクトマネージャー方式による建設事業が遂行できないものかとも画策しています。環境との共生をテーマと

したもののづくりをいかに経済的に實現して行くかについて、ただ勉強を重ねていたのではちがひがきません。様々な既往の業界圧力に屈せず、敢に戦うなかで技も力も磨けるのです。
 ボランティア活動とは大きく逸脱する事になります。が、ふくてつづくという類い希な社会資産を生かす一つの途かなと思ふのですがいかなものでしょうか。(記 中北 清)

活動懇談会報告

ふくてつづくの活動懇談会とは、毎月例会後に代表以下、各部会リーダーを中心に有志のメンバーが残つて当の活動計画などについて忌憚なく語り合う会です。決定機関ではありませんが、事実上、会の運営を支えているものです。
 さて、公的介護保険制度のスタートを間近に控え、私たちの会も大きな曲がり角にさしかかつてきました。福祉サービスという物が、公的保険という手法を介して商品取引のターゲットとなり様々な形での民間企業の参画が予想されます。福祉の一翼を担つてきた市民

活動の在り方も、今まででは存続すら危ぶまれていた。

そんな中懇談会は昨年暮れの合宿に始まり、1月二日の特懇談会、2月には例会を丸ごと懇談会にして、そうした諸問題についての討議を重ねてきました。
 おおよその結論として、まずひとつは、近年寄せられるニーズは通減傾向にあるが、それぞれの内容は大変に難しい問題を含んでいて、当会に求められている社会的要請に大きな転換が認められるという事です。
 2つ目は、この1年には木工部会をはじめとして活発な部会活動が展開されましたが、会員総数に比して、やや乱立気味で、むしろ弊害も散見されるようになりました。

本会の中心的な活動である住環境改善に取り組み部会(初期診断、製作、業者委託、事後検証その他)は、それぞれの独立性は保持しつつも、緩やかな連携を構築する事が好ましいという合意が成立しつつあります。また、これと呼応して抜本的な部会の再編と会運営を支えるべく総務部の確立を望む声が高まっています。

活動予定

3月12日(日)
 おおごえカーニバル
 子ども木工教室
 場所 針中野 酒塚公園
 主催 今川学園ネットワーク
 5月14日(日)
 日曜大工教室 ゴミスタンド
 場所 あべの市民学習センター
 *皆さんご参加ください。(記 中北 清)

ほたる草

大阪市天王寺区東高津町12-10
 大阪市ボランティア情報センター内
福祉と住環境を考える会「ふくてつづく」
 発行責任者 代表：杉浦史郎
 TEL 06-6765-4041
 高齢者や障害者の住環境改善を目指すボランティアグループです



集い、ふれあい、理解しあう

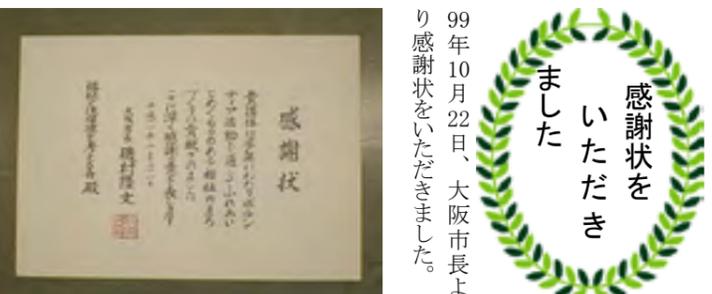
サロンは街角の井戸端会議



1月定例学習会
 平成二二年一月八日(土)
 サロン 淀川
 代表 窪田 新一氏

皆さんは「サロン活動」ってご存知でしたか?私は耳にしたことは何度かありましたが、はつきりしたことは知りませんでした。今回「サロン淀川」の代表をされている窪田氏のお話を聞き、サロン活動が身近なものとして感じられました。世代や性、障害の有無を越えて人々が集い、ふれあい、理解しあう場としてサロン活動があり、これからの地域福祉活動の基盤となると考えられているようです。
 氏がサロン淀川の代表をされて丸6年になります。

きつかけは、いろいろなボランティアをする中で障害者とかかわりができ、市社協からの呼びかけがあったそうです。参加費無料なので活動費の捻出も苦労するところですが、ボランティア基金や区民まつりでの販売、個人のカンパ等で賄っています。またご自身が中心で長くやりすぎると自分の色になってしまふので、人的確保も必要と考えておられます。
 参加者全員が主催者であるというスタンスのもと、いろいろな人が集まります。参加するうち障害者や高齢者に過剰な気づかいやヘルプは必要ないということに気付き、自然で楽しく参加できるようにするとのこと。
 子どもの頃から障害者に自然な形で接していると、大人になつても違和感なく当たり前の存在として、認識することができるといふ。障害者や高齢者にとつては外出する動機づけにな



感謝状をいただきました
 99年10月22日、大阪市長より感謝状をいただきました。

(文) 貴団体は多年にわたるボランティア活動をしてふれあいとくもりのある福祉のまちづくりに貢献されました。(こ)に深く感謝の意を表し

小さちゃん 萩野光



定例会のお知らせ

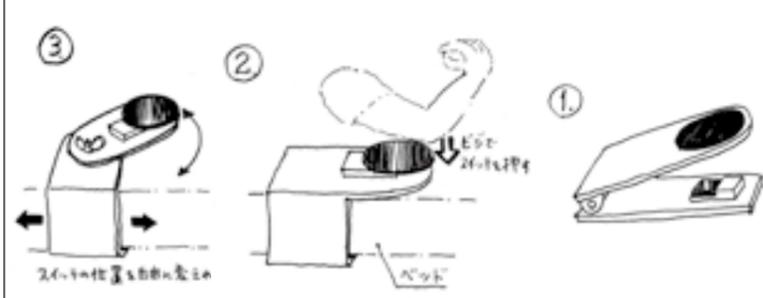
日時	場所	内容	講師
4月 4月1日(土) 午後1時30分~4時	大阪市社会福祉センター 3階 302会議室	福祉放送つれづれ話	福祉放送ディスクジョッキー 鍼灸師 重光 萬石氏
5月 5月13日(土) 午後1時30分~4時	大阪市社会福祉センター 3階会議室(予定)	学習会と総会	学習会 園芸療法と癒し 株式会社ソフトカンパニー スーパーバイザー 大澤 皓年氏

事例報告

A ニード
B 日常生活と家庭状況
C 解決方法
D 改善後の状況と考察

住吉区 Wさん 58歳 女性

A Gホームにお住まいで、ナースコールを使用したいが、上肢が曲がったままで、自由に動かさないので、肘で押せるナースコール用スイッチを作ってほしい。
B 肢体不自由者でほとんど



ベッドで生活している。昼間は介助してもらい車イスで作業所に行っている。
C 第1作で、ペダルでボタンを押すスイッチを製作したが、ストロークが大きすぎて使用出来なかった。①第2作で出来るだけスト

住吉区 Nさん 69歳 男性

本人は奥さんと2人住まいである。7年前から障害4級をもち、様々な病気で入院を繰り返している。最近、退院してきたが、歩行が困難であり、杖をつき、伝い歩きをしている状態である。そこで、奥さんが自宅での危険(所謂、段差での転倒)を少なくする為の住宅改造についてのアドバイスを依頼されたのである。
 住宅の間取りとご本人の日常行動範囲を現場確認し、更にご本人の話を伺った上で、トイレ入り口前に手すりを取付けることを提案した。今回は野山・磯田・岩本の3人で依頼者宅を訪問したが、終始、ご本人の

ローンを小さくした。ペダル式スイッチを製作した。②スイッチを自由に移動したいという要望があり、改良を加え、やっと使用できるものが完成した。③
D ベッドサイドの固定方法にやや問題があるようであったが、再三の訪問でご本人も認縮してか「もうこれで充分です。」とおっしゃり、少し心残りであった。
 (記 杉浦 史郎)

歩行困難に対する前向きな姿勢に驚くとともに感心した次第である。
 (記 野山 恭二)

城東区 公団住宅自治会

A 賃貸マンション5棟各々の1階出入口の段差解消。可動式で誰でも使いやすい物。
B EVホールと外部アプローチ(約55cm)、1階廊下(約50cm)それぞれに階段があり、住人の約3分の1を高齢者が占めている。近い将来加齢と共にシニアカー・歩行器・車イスなどが増える事が予測されますが、現在車イスの使用率は1名です。外出時はヘルパーさんが付き添っています。階段でのサポートに非常なる負担が及んでいます。家主(公団)は築



定例会での事例発表

5年での改修工事には応じられないとの事です。
C アビリティ社に依頼し、スロープ類・昇降型リフトのデモンストレーションを現地でを行いました。軽で設置や操作が簡単な伸縮式アルミスロープ(一本約1200)「スタートトラック3m」と「すいすい」を屋内・屋外ともに併用して使用する事を提案しました。
 ふくてつくとしてはアドバイスまで。自治会で再度検討してアビリティ社と直接交渉することになりました。
 (記 清水 麗子)

平野区 Hさん 68歳 女性

A 車イスから既存ベッドに乗り移るトランスファー台の製作及び設置。
B 母親と2人暮らし。頸椎損傷。首から下が不全

麻痺。両手半分が麻痺。親指と人差し指の機能がかなり弱く残存。
C 今までは母親が介護していたが、母親の病気に伴い、ご自分でベッドに移乗しなければならぬ。
 方法は、車イスで前方向でベッドに向かい、トランスファー台に両手で足を片方ずつ乗せ、両手でプッシュアップをしながら移乗する。台の材質は、褥瘡が出やすい体質なので、スポンジ系のシートを貼り、かつご本人のプッシュアップ力が弱いため、滑りやすいシートを選ぶ。逆に手の着く部分は滑りにくいシートを選ぶ。
D 依頼者宅にて台の高さ、幅、奥行き等を念入りに打ち合わせた。
 天板を50mmの集成材で作成し、受けを20mmの鉄筋を曲げ加工し、天板にシートを貼る。
 出来た台を持って設置に向う。台は納まったが、ご本人から奥行き、高さを覚えてほしいと言われ、サンダーで足を50mm切ったがダメであり、溶接の必要が有る為持つて帰る。その際、台から車イスが逃げないようにして欲しいとの要望があった。
 3度目、手直し済みの台

を持って向う。今度は50mm程足を短くする。やっとご本人に合った台が出来、「ほつ」とした。台から車イスが逃げないように番線とゴムで工夫。こちらにも気に入って頂けたようだ。最後にご本人からお礼を言われたのだが、嬉しいよりも「ほつ」としたのが、正直な気持ちであった。
 今回の作業は、各分野のメンバーが協力したのが良かったと思う。天板に貼ったシートも当初考えていた物より実用であった。また、倒がらず利用者の要望を聞き、手直しすることで、自分自身の良い勉強になった。利用者が長く、安全に使える仕事を心がけることが大切だと改めて思った。
 (記 濱田 伸二)



意気込みたつぷり、熱気ムンムン

西区 日曜大工講座



平成15年1月22日(土)・23日(土) 場所 西区在宅サービスセンター 主催 西区ボランティアビューロー 1日目 講義「日曜大工工具紹介と使いかた」実習「ごみスタンド製作」2日目 実習「プランター製作」

1月22日、日曜大工教室の開催は久しぶりで、準備万端整えて会場に行く。既にフロアにはシートが貼られ巡らされ、主催者の意気込みが感じられます。ふくとつくのメンバーもこの意気込みに負けず、一段とフライトを燃やしました。杉浦代表の挨拶に始まり、次に後藤氏の大工道具及び部品材についての説明がありました。限られた時間での説明は非常に難しいところですが、後藤氏の雄弁な説明で、参加者全員、

理解をして頂いたようです。午後からは実習で、有馬氏の熱のこもった説明後、いよいよごみスタンド製作です。製作工程の中で一番目の難関「ほぞ」作りは、大きな歓声の中、参加者及びふくてつくが協力し合い、何とか全員加工に成功しました。
 一難去って2番目の難関は、熊のプレートを支柱に釘で打ち付け、可動式にする支柱をネジ止めする作



業。参加者、ふくてつく一体となり「こうする、ああする、この角度」と工夫しながら無事完成しました。参加者の皆さんは、世界に2つと無い「マイ、スタンダード」と感想をつぶやきながら、机の上に少しガタタンする作品(一部のものを)置き、満足感に浸りながらしみじみと眺めておられました。
 終了時刻になり、まだ熱気のもった会場で、やり終えた満足感、親睦感に浸り、次回を楽しみにしながら、会場を後にしました。外は寒風、しかし心は何だか暖かでした。
 (記 高木 敏裕)

2日目の1月23日、この日はプランター製作で、3枚の杉板を糸ノコやジグソーで切り、バーナーで焼き目を付けてから、クギで組み立てて完成という手順でした。図柄のりに板をくり抜く作業に皆手間取ったよう、糸ノコの前は常に長い列が出来て



また、材料の板が行方不明になった方がいたり、バーナー用のボンベに、なかなか火が着かなかつたりとハプニングもありましたが、それでも順調に作業は進み、予定時刻より遙かに早く終了しました。
 お互いに誉め合ったり、人のアイデアを参考にしたり、手伝ったりしながらの4時間余りでしたが、皆さん疲れた様子も見せず、完成した作品を手に、満足そうな表情をしていらつしやいました。同じ材料、同じ工程で作ったのに、それぞれの個

性が出ていて、見ていて楽しく参考になりました。私は、スタッフとはいえ初参加だったので、誰かに質問されるとあわてて木工部会の方を探して質問の内容を伝えるのみ・・・という状態で、十分にお手伝いできたかどうか心もとない思いです。的確なアドバイスが出来る様になる為にも、機会があれば自分でもやってみたいな・・・と思ったりもしています。
 (記 山本 尚子)

本の紹介

生きててもええやん、脳死を拒んだ若者たち
 頭部外傷や病気に伴って重い障害を持った人と家族の手記。回復の希望を捨てず、積極的な医療を選択した方々の記録です。
 (会員の岩元さんより紹介)

